

九州大学大学院医学系学府博士課程の履修について

1. 博士課程の修了要件は、36-59単位以上修得のこと

科 目	単 位 数	履修年次
初 年 次 共 通 科 目	6	1 年次
基 礎 研 究 者 養 成 科 目	12 (選択)	1 - 3 年次
臨 床 研 究 専 門 教 育 科 目	12 (選択)	
a) 臨床腫瘍医師養成コース b) 放射線腫瘍医師養成コース	(11) (2)	
専 門 科 目	18	2 - 4 年次
a) 専攻コア統合科目	(4)	
b) 専攻コア選択科目	(8)	
c) 博士論文演習	(6)	
臨 床 実 習	(8)	2 - 4 年次
a) 臨床研究臨床実習 b) がん臨床実習	(12)	
合 計	36-59	

※基礎研究者養成科目もしくは臨床研究専門教育科目のどちらか（12単位）は必ず全て履修しなければならない。

※がん専門教育科目の放射線腫瘍医師養成コースを選択した者は、がん専門医師養成コース入門・臨床放射線科学の履修を必修とする。

(1) 初年次共通科目 3科目6単位以上修得のこと（必修）

下記の初年次共通科目から3科目6単位以上を原則として1年次に履修しなければならない。

科 目 名	内 容	単位数		備 考
医 学 史	講義・グループワーク	2	必 修	
医 学 研 究 の 倫 理	講義・グループワーク	2	必 修	
医 学 英 語	講義・演習	2	選択必修	オンライン授業
医学教育・研究発表技法	講義・演習	2	選択必修	

(2) 基礎研究者養成科目（講義） 3科目6単位以上修得のこと（選択必修）

基礎研究者養成科目を選択した者は、下記の科目（講義）から6単位以上を原則として1-3年次に履修しなければならない。

科 目 名	内 容	単位数	備 考
形態科学研究法(1)	講義	2	
医療情報統計科学研究法	講義	1	
生物化学研究法	講義	1	
実験動物学研究法	講義	2	
生理科学研究法	講義	1	
微生物学・免疫学研究法	講義	2	
社会医学研究法(1)	講義	1	
社会医学研究法(2)	講義	1	
生物物理学研究法	講義	1	
移植再生医学研究法	講義	1	
先端医療工学研究法	講義	1	

基礎研究者養成科目（実習） 6単位以上修得のこと

基礎研究者養成科目を選択した者は、下記の科目（実習）から6単位以上を原則として1－3年次に履修しなければならない。各科目（実習）は3段階（初級・中級・上級）に分け、初級は当該分野への配属学生以外の学生も履修可能とする。（但し受入人数に制限あり）中・上級は原則として配属学生を対象とし、他分野配属学生の履修は個別の相談による。

科目名	実習テーマ	内容	単位数			合計 単位数
			初級	中級	上級	
形態機能形成学	細胞間結合装置の超微構造研究法	実習	2	2	2	6
発生再生医学	発生学研究法	実習	2	2	2	6
医化学	受容体研究法	実習	2	2	2	6
基礎放射線医学	分子生物学研究法	実習	2	2	2	6
分子細胞生化学	生化学実験法	実習	2	2	2	6
生体情報薬理学	細胞薬理学的研究法	実習	2	2	2	6
	電気生理学研究法	実習	2	2	2	6
臨床薬理学	薬物動態研究法	実習	2	2	2	6
分子細胞情報学	細胞カルシウムシグナル研究法	実習	2	2	2	6
神経形態学	形態科学研究法・神経形態実験法	実習	2	2	2	6
統合生理学	電気生理学研究法	実習	2	2	2	6
臨床神経生理学	脳機能研究法	実習	2	2	2	6
病理病態学	臨床病理学研究法	実習	2	2	2	6
形態機能病理学	病理学研究法	実習	2	2	2	6
神経病理学	神経生物学研究法	実習	2	2	2	6
臨床検査医学	細胞生物学研究法	実習	2	2	2	6
細菌学	細菌学研究法	実習	2	2	2	6
ウイルス学	ウイルス学研究法	実習	2	2	2	6
感染免疫・熱帯医学	感染免疫学研究法	実習	2	2	2	6
予防医学	統計解析演習	実習	2	2	2	6
環境医学	金属中毒学研究法	実習	2	2	2	6
法医学	法医病理学研究法	実習	2	2	2	6
医療情報学	医療データ処理・統計解析実習	実習	2	2	2	6
医療システム学	政策・経営・管理研究法	実習	2	2	2	6
老年医学	転写調節研究法	実習	2	2	2	6
腫瘍制御学	臨床腫瘍免疫学研究法	実習	2	2	2	6
分子発現制御学（分子医科学）	分子発現制御学研究法	実習	2	2	2	6
免疫遺伝学	免疫遺伝学研究法	実習	2	2	2	6
脳機能制御学	脳機能制御学研究法	実習	2	2	2	6
感染制御学	感染制御学研究法	実習	2	2	2	6

※生医研・別府地区について

生医研・別府地区では、下記の3科目12単位を開講するので上記基礎研究者養成科目に代えて履修することが出来る。但し、講義のみ実習のみの受講は認められない。

科目名	内容	単位数	備考
分子生物学研究法	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講
免疫学研究法	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講
形態科学研究法(2)	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講

(3) 臨床研究専門教育科目 10科目12単位を修得のこと

臨床研究専門教育コース、がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）を選択した者は下記の科目を原則として1－3年次に履修しなければならない。1年間継続して履修することを推奨する。

科 目 名	内 容	単位数
臨床研究の現状と将来展望	講 義	1
臨床研究の倫理と規制	講 義	1
臨床研究デザイン	講 義	2
臨床研究データの解析	講 義	2
臨床研究のシステムとその構築	講 義	1
疫学研究	講 義	1
医薬品・医療機器の開発	講 義	1
ゲノム薬理学とEBM	講 義	1
がんの臨床試験とEBMの構築	講 義	1
トランスレーショナルリサーチの歴史、倫理、現状	講 義	1

(4) がん専門医師養成教育科目

a) がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース）を選択した者は、下記の科目（11単位以上）を原則として1－3年次に履修しなければならない。また、癌治療と関連するその他の関連科目の履修を推奨する。

b) がん専門医師養成コース（放射線腫瘍医師養成コース）を選択した者は、下記の科目（2単位）を原則として1－3年次に履修しなければならない。また、がん医師養成コース入門・臨床放射線科学の履修を必修とする。さらに、癌治療と関連する他の関連科目を推奨する。

科 目 名	内 容	単位数	a	b
臨床腫瘍医の基本原則とがんの心理社会的側面	講 義	2	○	
悪性疾患の管理、治療の基本原則	講 義	4	○	
各種がんの管理、治療	講 義	5	○	
EBMに基づく放射線治療と最新の知見	講 義	2		○
緩和ケアの概念と各論	講 義	2		

九州がんプロフェッショナル養成プランが提供する「e-ラーニングプログラムジュークボックス」は、本学の講義以外に、さらに広く、深く学ぶための参考資料として視聴を推奨します。

(5) 専門科目 合計18単位以上を修得のこと

a) 専攻コア統合科目 4科目4単位以上修得のこと

4科目以上の授業科目を2～4年次に履修しなければならない。

（4科目4単位以上の単位修得選択必修）

科 目 名	単位数
基礎医学研究者養成コース入門 (1)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (2)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (3)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (4)	1

基礎医学研究者養成コース入門 (5)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (1)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (2)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (3)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (4)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (5)	1
臨床研究専門教育コース入門 (1)	1
臨床研究専門教育コース入門 (2)	1
臨床研究専門教育コース入門 (3)	1
臨床研究専門教育コース入門 (4)	1
臨床研究専門教育コース入門 (5)	1
がん専門医師養成コース入門 (1)	1
がん専門医師養成コース入門 (2)	1
がん専門医師養成コース入門 (3)	1
がん専門医師養成コース入門 (4)	1
がん専門医師養成コース入門 (5)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (1)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (2)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (3)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (4)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (5)	1

b) 専攻コア選択科目 4科目8単位以上修得のこと

指導教員の属する研究単位の授業科目から2科目以上を含め4科目8単位以上の授業科目を2～4年次に履修しなければならない。

(4科目8単位以上の単位修得選択必修)

必 要 科 目	必要単位数
指導教員の属する研究単位の授業科目 (4科目)	8単位以上

c) 博士論文演習 3科目6単位修得のこと

下記の授業科目を2～4年次に3科目6単位履修しなければならない

(3科目6単位修得必修)

科 目 名	単位数
博士論文基礎演習	2
博士論文応用演習	2
博士論文作成演習	2

(6) 臨床実習

臨床研究専門教育コースは臨床研究臨床実習8単位、がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）はがん臨床実習12単位を2～4年次に履修しなければならない。

科 目 名	単位数
臨 床 研 究 臨 床 実 習	8
が ん 臨 床 実 習	12

※臨床研究臨床実習

コース履修の際は、3か月間は所属する講座において計画中あるいは進行中の臨床研究に参加する。

※がん臨床実習（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）は3か月12単位修得のこと臨床腫瘍医師養成コースのうち、がん薬物療法専門医師取得を目指す者はローテーションを行う等により3領域以上の診療経験を積むこと。

放射線腫瘍医師養成コースはがん医師養成コース入門・臨床放射線科学の履修の際に、3か月間以上の放射線治療に関する臨床実習を行う。